

令和6年度(2024年度)

日野市子ども条例推進事業

日野市子どもオンブズパーソン

鳥生 尚美 先生

講演会 アンケート結果報告



日野市

講演会概要

日時:令和 6 年(2024 年)6 月 29 日(土曜)午後 1 時 30 分から午後 3 時 10 分まで

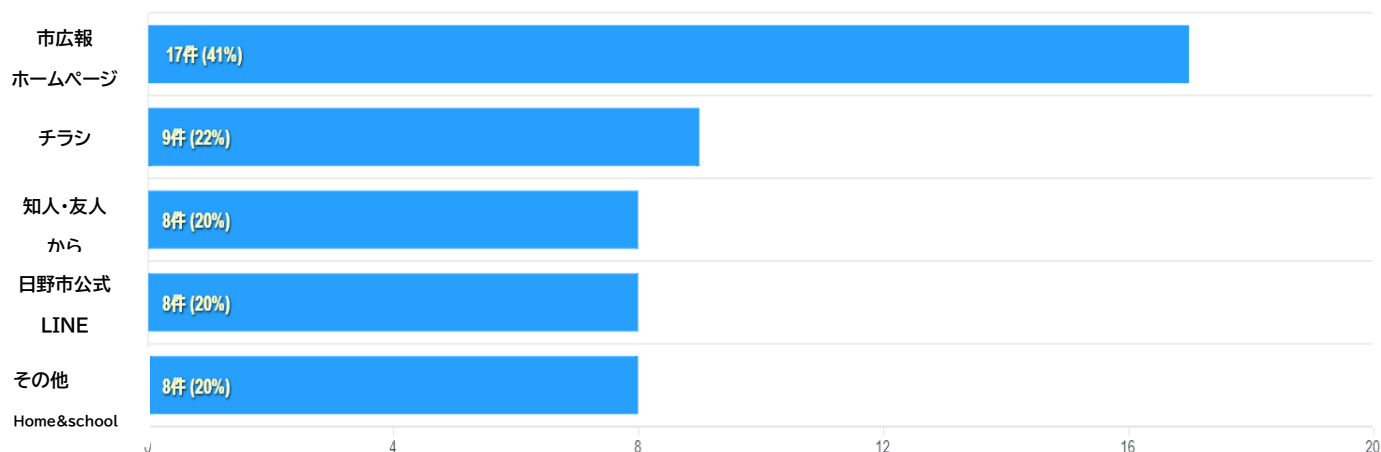
場所:日野市子ども包括支援センター「みらいく」3 階 多目的室

講師:日野市子どもオンブズパーソン 鳥生尚美 弁護士

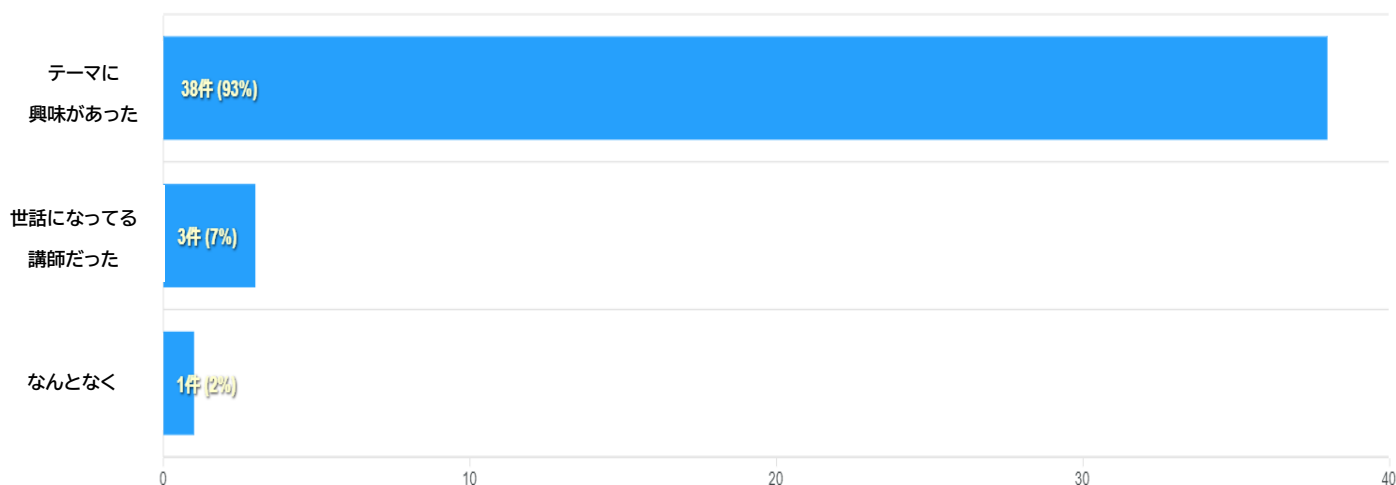
受講者数:72人(未就学児及び市職員含む)

アンケート結果は以下の通りです。

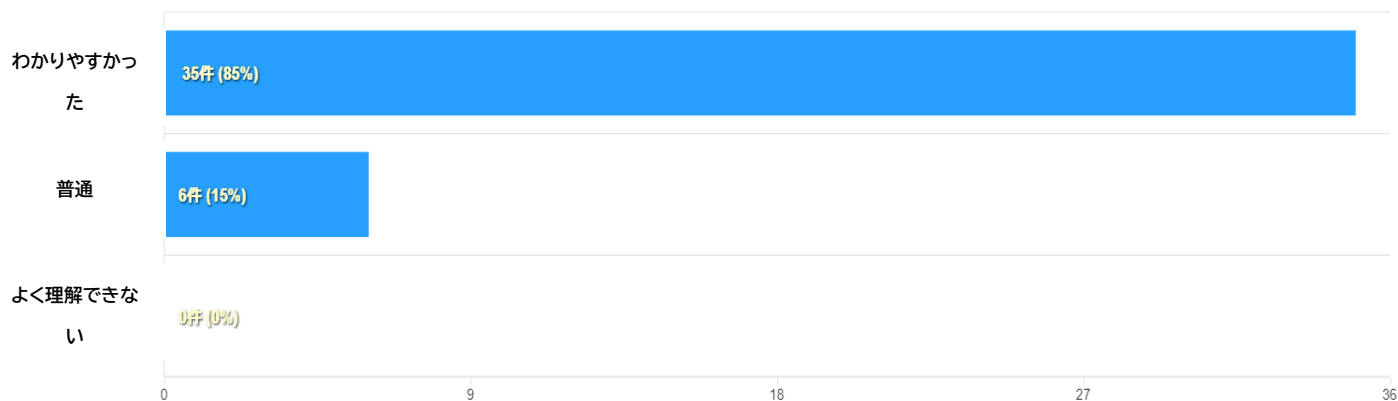
Q1.本日の講演会はどこでお知りになりましたか。(複数回答可)



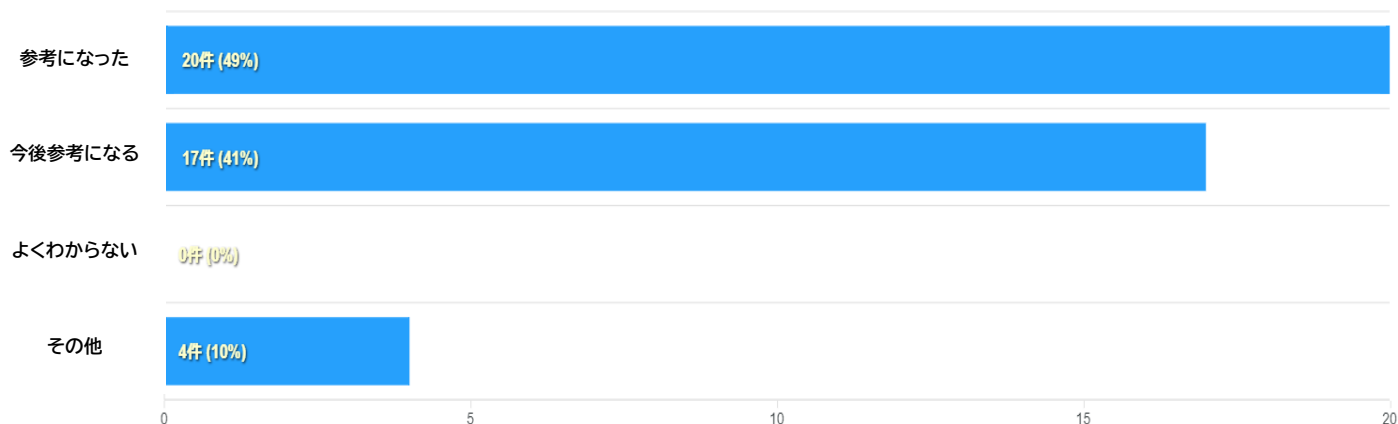
Q2.本日の講演会に参加した主な動機について(複数回答可)



Q3.講師の先生の説明について



Q4.説明用資料・配布資料等について



Q5.今回の講演会の感想をお聞かせください。

- エピソードを交えてお話くださったので、とてもわかりやすかったです。人権というと難しいイメージを抱きがちですが、安心・自信・自由と解きほどこしてくれたので、当たり前のものであるということがよくわかりました。
- 子ども条例は知らなかったもので、子育てをする者として、親として読んでいきたいと思います。子どもの人権について、性教育について学ぶことはとても大切だと思いました。
- 大人が人権を守ること、自由・自信・安心を大切にして過ごすということが、重要であるとわかりました。
- 子どもの声を聴く・子どもの権利を守るためには、大人自体が権利を考えることが大切だと改め

て思った。

- オンブズパーソンの役割がよくわかりました。
- 鳥生先生の考えを聞けて良かったです。教育現場で大人の人権が守られていないと思った。
- 専門職ですが、日本との差もあるせいか、ついていくのがやや難しかったです。
- 先生の経験からわかりやすい説明で学びになりました。子育て中の私ですが、一歩ずつ子どもと仲良く暮らしていきたいと思いました。
- ありがとうございます。
- 子どもの心に寄り添うには、子どもを理解するのには、自分の時代と比べてはいけないと思いました。
- 丁寧に心を込めてお話しいただきありがとうございます。何かあった時に相談に行ける方だと感じました。
- 「権利が守られる」のお話で、子どもだけでなく大人も一人ひとりが守られ、安心することで、ようやく子どもも守られるとお話ししていたことにととても納得しました。というのも、私も子育てをしながら、「子どもばかり守られたり目を向けられたりするけど、まずはお母さん(大人)が大切にされなかったら子どもを守れないだろう」と思っていたからです。私自身も理不尽な扱いを受けた過去があるので、「成人しても守られる必要があるよ」と強く感じてきました。今日のお話をすべての人に聞いてもらいたいです。ありがとうございます。
- 子供の意見を聴くという姿勢を改めて考え直しました。
- 子どもの声を聴かせてもらう、その上で、歩いてついてゆく視点を忘れずにいたいと思いました。
- 自分で意見表明ができない子どももいると思うのですが、そのような子どもの意見表明はどのように保障・キャッチしたらよいのか知りたいです。
- 子どもの声を聴くこと、選択をしてもらうことの意味がよくわかったと思います。北欧のエピソードなど興味深かったです。

- オランダの教育システムも、大人が真剣にどういう社会を創りたいか、そのためにどういう教育システムがいいか、子どもたちの人権が守られていくかを大事にしていると思います。大人が自分の安心・自信・自由を大切にする姿を見せる、すごくいい表現だと思います。
- とても大切な話を聞くことができました。私も子どもに人権・福祉の授業をしているので、今日の話的大事に進めていきたいと思います。ありがとうございました。
- 「子供の意見を聴く」って生活の中でなかなか思っているけど具体的に聴けていないし、発してもらえないかも…と思います。今からできることとしては、心と時間のスペースを作り、子どもに意識を向けることをやっていこうと思います。
- 人権・子どもが特別なわけではなく、そういう社会になればいいなと思いました。
- 自分の考えが整理されるとともに、新たな学びがたくさんありました。これからのみらいくとオンブズに大きな期待をしています。
- とても共感できる素晴らしい内容でした。まずは大人から人権を尊重し合う姿勢を見せていくこと、意見を表明すること。自分から変わることが子どもの権利を具現化する一歩になるという意識がまち全体に広がっていくことを期待します。
- 日野市が早くから子どもの人権確立に取り組んで来たこと 鳥生先生も御自身のご経験から子どもの人権を守るための活動に主軸を置くようになった経緯がよく理解できました。また、子どもの人権尊重には大人の理解度が深いことがとても大切だということもわかりました。それは教育現場においても重要で、教育に携わる関係者も等しく理解すべきと思いますが 教育と子どもの権利についてお話がなかったのは少し残念に思いました。次回以降の講演会で取り上げていただければ幸いです。

総評

講演会の内容については、ほとんどの方がわかりやすく大きな学びとなったとの感想であった。また、講演会の話は北欧などの講師のエピソードを交えたもので、大変興味深いものであった。

子どもの人権を考える上で、大人自身が人権のことを理解し、自分の人権が守られている(=安心・自信・自由を実感すること)が子どもの人権を守ることにもつながっていく。

また、大人は子どもを権利の主体として認識し、子どもの決定を尊重し、伴走支援をしていくスタンスが求められていることなど、子ども自身に考えさせ、判断させる機会を作り、それを見守る大人の対応が求められる。

子どもは将来の社会を担っているだけでなく、今を生きる存在であり、また「今を生きる子どもの専門家」であるから、子どもに意見を聴くことは子どもの知識と経験を社会に活かし、子どもの最善の利益の実現につながることを理解し、子どもがどのような選択をしても不利益とならないような社会にしていかなければならない。

令和6年(2024年)7月 作成

日野市子ども部子育て課